

こころ



THCU Chronicle *Heart*

No.30 Summer 2020

第30号



Welcome Back to THCU !

～登校自粛から授業再開に向けて～

本学では、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）感染拡大に伴い、「COVID-19対策本部」を設け、様々な対応を検討・実施してまいりました。（詳細は、P3をご覧ください。）本号では、主に「Stay Home」期間中の各学部・学科等の取組みをご紹介します。

●写真紹介

- 【上段】左：世田谷キャンパス（東京都世田谷区）
右：船橋キャンパス（千葉県船橋市）
- 【中段】左：日赤和歌山医療センターキャンパス（和歌山県和歌山市）
中：国立病院機構キャンパス（東京都目黒区）
右：五反田キャンパス（東京都品川区）
- 【下段】左：雄湊キャンパス（和歌山県和歌山市）
右：国立病院機構立川キャンパス（東京都立川市）

CONTENTS

- 2 特集
 - ・新入生の皆さんへ
 - ・COVID-19対策本部より
- 4 各学部・学科等の取組み
- 14 Information
 - ・令和2年度 学生募集結果
 - ・令和元年度 決算報告
 - ・令和元年度 各種国家試験受験結果
 - ・令和元年度 卒業生学科別進路状況
 - ・令和元年度 学位記授与式・修了式
- 18 東京医療保健大学 同窓会
- 19 Student's voice
- 20 東京医療保健大学 校歌



理事長 Message

東京医療保健大学
理事長 田村 哲夫

入学した皆さんに心からエールをお送りしたいと思います。そして本学で充実した4年間の学生生活を過ごし、素晴らしい力を付けてくださることを期待しています。

入学にあたりまして、東京医療保健大学の中身を説明して皆さんの参考にしていただきたいと思ひます。本学は、2005年に私どもが創立した、新しい大学です。皆さんご存じのように、大学という制度は大変古い歴史を持っています。どれくらい古いかと言うと今から2500年前その頃に源があると言われていす。そして、大学と言う制度は実は皆さんが今まで学ばれた小学校・中学校・高校と基本的に違う性格を持っている場所です。小学校・中学校・高校は、世界を見ると国によって仕組み・目的・制度が大変違ひます。ところが大学・大学院は世界中どこも共通です。従ひまして、大学で資格を取得するというと、日本であれば日本の国が決めた資格、例えば看護師や栄養士、診療情報管理士といった色々な資格がありますが、そのような資格とは別に大学で身に付けたものを証明する資格「学位」が大学には3つ用意されています。学部を卒業すると「学士 (Bachelor)」、大学院を修了すると「修士 (Master)」、その上に「博士 (Doctor)」という学位が用意されています。実はこの資格は世界中どこでも通用する非常に意味のある資格ということをお伝えしておきたいと思ひます。

そして、私が作詞した「校歌」には4つのキーワードを潜めてあります。これは大学時代に皆さんに身に付けて欲しいものを言葉にして校歌にしております。まず1つ目は「いのち」です。本学で学ぶ学問は、生命に関わっているということです。2つ目が「思いやり」、3つ目が「絆」、最後が「愛」です。この4つのキーワードが本学で皆さんが身に付けるその性格だと思ひていただければと思ひます。

大学では、しっかりと視野を広げて色々なことを身に付け、素晴らしい人生を送る出発点にしてもらいたいと思ひます。これから皆さんの活躍を期待しています。



学 長 Message

東京医療保健大学
学長 木村 哲

東京医療保健大学に入学された大学院生、助産学専攻科生、学部生の皆さん、ご入学、誠にありがとうございます。ご家族の皆様も、さぞかしお喜びのことと思ひます。本来であれば、ご来賓やご家族の方々と盛大な入学式を執り行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染症「COVID-19」の感染拡大の影響で、それが叶えられず、非常に残念です。大学としても苦渋の決断でしたので、どうぞご理解ください。

本学の新生数は毎年、全体で700名を超えており、医療系大学では日本で最大規模の教育機関となっております。その社会的責任も大きいので、教職員は学生の皆さんに将来、高度な専門的知識と技術と温かい人間性を持った信頼される医療人になっていただこうと、大いに張り切っております。

医療や保健に関連する仕事は多くの人々に希望を与えることのできる大変やりがいのある職業です。学部の皆さんは正にそのプロになるための入り口の門をくぐったところす。4月から遠隔授業でしたが、6月後半から分散登校による対面授業も始まります。これから先、「専門的知識や技術」はもとより、人々の命を預かる医療人としての使命感・倫理観とともに、多様な人生観や価値観を偏見なく受け止められる温かい人間性の持ち主となるよう、更に磨きをかけていただきたいと思ひます。

これからの大学生活では、積極的に視野を広げ、幅広い教養を身につけるよう努力することが必要になります。豊かな教養が適切な倫理観を支え、多様性を理解する基盤となるものと思ひます。本学には、大学の将来を展望した大学ビジョンがあります。その冒頭で「私たちは多様な価値観を尊重し一歩先を歩み続け明るい未来の医療保健を創造します」とうたっています。多様な価値観を尊重し相手を理解し思いやる優しさを持つ事は本学の建学の精神であり「医療」の原点でもあります。大学ビジョンの実現に向かって邁進し、みんなで明るい未来の医療保健を創造しましょう。

学科長・研究科長紹介



副学長
医療保健学部長・
看護学科長
大学院
医療保健学研究科長
助産学専攻科長
さかもと
坂本 すが



副学長
医療保健学部
医療栄養学科長
こにし としろう
小西 敏郎



副学長
医療保健学部
医療情報学科長
いしはら てるお
石原 照夫



副学長
大学院
看護学研究科長
おおしま ひさし
大島 久二



副学長
東が丘・立川
看護学部長
東が丘看護学部長
立川看護学部長
やましろ ふみこ
山西 文子



副学長
千葉看護学部長
みやもと ちづこ
宮本 千津子



副学長
和歌山看護学部長
大学院
和歌山看護学研究科長
やしま たみこ
八島 妙子

「新たな生活様式」における、よりよい学びの場づくりに向けて

本学では新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染防止の観点から、4月上旬から全キャンパスにおいて登校自粛といたしました。併せてICTを活用して遠隔授業の体制を整え、各学部・学科のカリキュラムに合わせてオンデマンド型やリアルタイム型の授業を展開しております。

遠隔授業は、本学としても初めての取り組みです。さらに本学の学部生、大学院生、専攻科生、そして教職員を合わせると、遠隔授業の通信対象となる関係者は約3,000名にのぼります。これほど多くの関係者に短期間でICTシステムの利用方法を周知し、授業を行っていくことは容易ではありません。このため各学部・学科に「ICT活用授業推進員」の教員を任命し、学生への説明などを強化しております。

オンデマンド型の授業には、繰り返し学習できるという利点があります。COVID-19の影響で学生の生活環境も変化しているため、好きなきに視聴できる利便性も重視して当初はオンデマンド型授業から広がっていきました。もちろんリアルタイム型の授業にも、学生同士でディスカッションできるなど多くの利点があります。これまで教室では挙手しにくかった学生からも、チャットを用いることで教員に質問しやすくなったとの声を頂いています。このようにオンラインの特性を生かして、より効果的な遠隔授業を行えるよう今後も教職員一丸となって努力してまいります。

他方、キャンパスに登校して授業を受けたいという学生のニーズもあります。特に設備や機器を必要とする演習・実験は、遠隔での実施には限界があります。このため5月末に緊急事態宣言が解除されたことを受け、対面による学修の機会も模索してまいります。もちろんCOVID-19との闘いは続いていますので、対面授業に際しては感染防止に最大限の配慮を払うことが大前提です。このため、学生数は教室定員の半数程度とすること、通学や昼食に伴うリスクを減らすため授業開始時刻を遅らせることなどの調整を、各キャンパスの実情に合わせて進めております。

病院などでの臨地実習は、感染拡大の状況が地域ごとに異なることから、学部・学科ごとに実施できる範囲を検討しています。実習が難しい地域のキャンパスでは、実習で修得する内容の一部を遠隔環境で学べるようにするなど工夫しています。実習を行う場合は、学校医（全学教務委員長）の助言を受けて実習計画を立案するなど万全の体制をとっています。

本学には、わが国でも有数の「感染制御学教育研究センター」があります。同センターでは、日ごろから研究や人材育成を通じて感染制御の推進に貢献しています。今般のCOVID-19の流行を受けて、マスメディアから本学への問合せも増えました。ソーシャル・ディスタンスの実践方法を本学教員が解説する場面などをテレビでご覧になった方も多くと思います。こうした専門的知見を活かして、学生向け手引きの作成や、新入生オリエンテーションの際に感染症に関する基礎知識を得られるよう講話などを行っています。

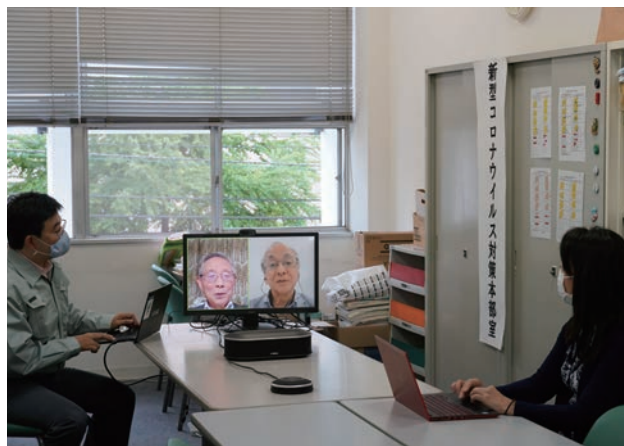
事務局においても、授業の支援を行う教務部はもちろん、「学びの継続のための学生支援緊急給付金」の手続きなどを行う学生支援センター、新入生へのPC貸与を行う総務人事部、そして各キャンパス事務部などが一丸となって学生のサポートを行っています。図書館でも、6月から事前申込制による図書貸出や文献複写を再開しました。

これらの活動は、本学のCOVID-19対策本部が発行する「遠隔授業だより」に取りまとめ、学生や保護者の皆様にわかりやすく説明してまいります。まだ「新しい生活様式」は始まったばかりですが、遠隔授業と対面授業の最適な組み合わせを追求し、今後もよりよい学びの場づくりに努めてまいります。ご理解、ご協力の程よろしくお申し上げます。

新型コロナウイルス対策本部
医療保健学部 医療情報学科 教授 瀬戸 僚馬



万全の感染対策により学内実習を再開



新型コロナウイルス対策本部での打合せ風景

ICTを活用した授業のための教員対象研修会・学生対象説明会の実施

4月からの遠隔授業開始に向け、看護学科では3月16日にFD研修会「ICTを利用した教育方法」を実施しました。本学第2期中長期目標の教育課程・学習成果に基づき、各教員が本学科ビジョン到達のためのICTを活用した教育効果を説明、授業設計を立案できることを目的としました。研修会はこれまで授業実践でICTを活用したことがない教員にも教育方法・授業設計がイメージできるように、Zoom（チャット機能を含む）を活用したアクティブラーニング型研修会としました。

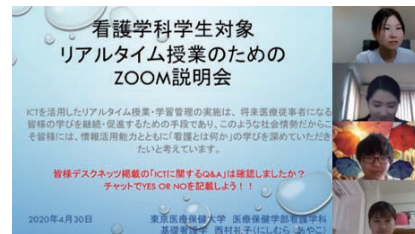
4月1日には、オンライン授業実現に向けた「ICTを活用した授業～Zoomによるリアルタイム授業・Moodleによる学習管理・オンライン授業での著作権～」研修会を実施しました。実際にZoomおよびMoodleを活用した演習形式にて、4月8日からオンライン授業を開始するための学生側・教員側の要件、それぞれの利点・欠点を把握したうえで授業形態やリソースの選択、学生への情報モラル教育、オンライン授業での著作権の課題についてディスカッションしました。

また、学生に対しては3月30日に教務部がネット環境の調査、その結果を受け4月6日・7日にZoomを活用した「オンライン授業のためのZoom説明会」を開催、新入生に対しては4月3日新入生オリエンテーション、さらに4月30日にZoomで説明会を実施しました。説明会では実際の操作方法や機能に加え、誰もが情報の送り手と受け手の役割を担う現代の情報化社会では、情報が他者へ与える影響

を考え、情報の信頼性・管理、危険回避など情報を適切に取り扱う知識・技術・態度を学ぶ必要性についても説明しました。4月15日には学生の情報リテラシー能力向上のために「ICTに関するQ&A」を作成・公開、5月からはZoomを活用した演習を1、2年生（1学年110名）に対して開始し、双方向の授業を実施しています。

ICTを活用したリアルタイム授業・学習管理の実施は、将来医療従事者になる学生の学びを継続・促進するための手段であり、このような社会情勢だからこそ、情報活用能力とともに「看護とは何か」の学びを深めてほしいと願っております。看護職が人とのコミュニケーションの中で実践する看護、今後のチーム医療の一員であるICTを活用する看護を学生自身が考える機会を今後も提供したいと考えております。

看護学科では、COVID-19の影響があっても学びを継続できる環境と方法を今後も教職員一同、検討していきたいと思っております。



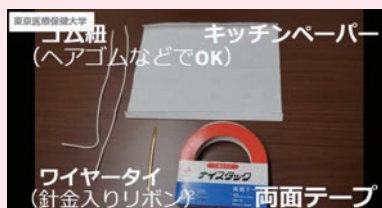
基礎看護学領域
准教授 西村 礼子
にしむら りよこ

マスクを作ってみよう！

医療保健学部 看護学科 渡會睦子教授による「マスクの作り方」をご紹介します動画を作成いたしました。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行に伴い、マスクを始めガーゼやマスク用ゴム等も不足する状況が続いたため、身近なもので簡単に作ることができる内容といたしました。現時点ではマスクの供給が安定し始めており、すぐに手に入る状況ではありませんが、今後また不足となった際や災害時に備えて、是非参考にしてみてください。

動画は
YouTubeに
公開中！



- 1** 用意するものは、キッチンペーパー、ゴム紐（ヘアゴムでもOK）、ワイヤータイ（針金入りリボン）、両面テープ



- 2** ・キッチンペーパーの上下を1.5cm程度折り、下の折り目に合わせて両面テープを貼る
・両面テープの上にワイヤータイをのせたものを1つ作る



- 3** ・上の折り目に作ったワイヤー付きタイを貼る
・両面テープをはがし、上下それぞれの折り目通りに貼り合わせる



- 4** ・キッチンペーパーの折り目を利用して、真ん中のブリーツを作る
・真ん中のブリーツの上下に1段ずつブリーツを作る



- 5** ・裏返して左右を2cm程度折り、折り目の内側に両面テープを貼る
・左右の折り目にそれぞれゴム紐を置き、両面テープを貼り合わせ、最後にゴム紐を輪にして結び



- 6** 完成🌟
左右の折り目を大きくすると小さめサイズも作ることができます。同じ折り方で布マスクも作成可能です◎

卒業生が考案した透析食レシピ掲載 ～透析ケア冬季増刊「透析患者の食事管理」～



卒業生が考案した透析食レシピ掲載～透析ケア冬季増刊「透析患者の食事管理」～

透析ケア誌（株式会社メディカ出版）は、多くの透析施設で購読されている雑誌です。2019年冬季増刊は「透析患者の食事管理」をテーマに私が編著として携わりました。

透析患者は、食事管理を欠かすことができません。しかし、なぜ食事管理が必要なのか、具

体的にどのようなことに気をつけて食事をとればいいのかを理解できていなければ、適切な食事管理には結びつきません。不適切な食事管理は、不十分な食事摂取量と栄養摂取量の不足に直結し、栄養障害や合併症の発症・重症化、日常生活動作（activities of daily living：ADL）や生活の質（quality of life：QOL）の低下をもたらすことになります。

透析現場では、新規透析導入患者を含む透析患者の高齢化が著しく、支援や介護が必要な患者が増え、食事管理や食事指導もスムーズにいかない場合が多くあります。食事指導の内容や手法は、決まった型はありません。患者が求めるものは何か、それに応じた指導が大切です。そこで、スタッフと患者がともに食事管理について学んでいくことができるような内容を目指しました。

本書は、まず「食事管理の基本」、「具体的な食事や食品」、「スタッフの疑問」の三部構成を全100問のQ&Aの形式で解説し、最終章では、患者やその家族が家庭で簡単に調理できるおススメの透析食レシピとすぐに利用できる指導ツールを紹介しました。透析食レシピでは、北島研究室2019年度卒業研究生の3名が、缶詰や冷凍食品、惣菜などを利用した3品を紹介しました。何度も試作を繰り返し、完成したレシピは、すべての年齢層で手間をかけず簡単に調理することができます。もちろん、食塩やカリウム、リン量を抑えつつエネルギーやたんぱく質を摂取できるよう配慮されています。

透析患者の生活をサポートするものになることを願います。

准教授 きたじま ゆきこ 北島 幸枝

透析食 レシピ

レシピ①
主菜 さば缶グラタン

東京医療保健大学医療保健学部医療栄養学科准教授 北島幸枝 きたじま ゆきこ
同北島研究室 工藤優美 くどう ゆうみ 穂永はるか ほのなが はるか 安田梨子 やすだ りこ



栄養価 (1人分)	
エネルギー	311kcal
水分	100.8g
たんぱく質	16.7g
カリウム	448mg
リン	174mg
食塩相当量	1.1g

材料 (1人分)
さば缶詰 70g (1/2缶)
冷凍フライドポテト 30g
たまご 40g
塩 0.2g
こしょう 少々
マヨネーズ 12g (大さじ1)
パン粉 3g (大さじ1)

つくりかた
●オーブンは180℃に予熱しておく。
●さばの骨を取り除き、軽くはくす。
●たまごを薄くスライスし、水にさらした後、しっかりと水を切る。
●フライドポテトを電子レンジで加熱する(商品に記載の加熱時間)。
●オイル(分量外)を煮くだった耐熱容器に●を入れ、マヨネーズをかけた後、パン粉を散らす。
●オーブンで焼き目がつくまで焼く。

レシピ②
副菜 香ばしポテトコロッケ風

東京医療保健大学医療保健学部医療栄養学科准教授 北島幸枝 きたじま ゆきこ
同北島研究室 工藤優美 くどう ゆうみ 穂永はるか ほのなが はるか 安田梨子 やすだ りこ



栄養価 (1人分)	
エネルギー	185kcal
水分	46.2g
たんぱく質	6.1g
カリウム	199mg
リン	103mg
食塩相当量	0.5g

材料 (1人分)
油揚げ 20g (1/2枚)
ポテトサラダ(市販) 40g (大さじ2)
えだまめ(冷凍可) 5g (5粒)

つくりかた
●オーブンは200℃に予熱しておく。
●えだまめを茹でる。
●油揚げを平分に切り、袋状に開く。
●ポテトサラダとえだまめを混ぜ、●に詰め、爪楊枝などで口を閉じる。
●オーブントースターまたはオーブレンジのトースター機能で焼き目がつくまで焼く(約3分)。ごま油を熱したフライパンで焼いてもよい。

津村教授最終講義 ～人工知能の医療応用～

2019年度末で定年退職された津村宏教授（現 名誉教授）の最終講義が1月26日・世田谷キャンパスで行われました。ご専門である人工知能の医療応用に関する話題を中心に、情報技術と医療の将来についてお話しいただきました。

津村先生は前職のNTT研究所の時代に、旧関東通信病院（現NTT東日本関東病院）と共同で頭痛診断システムの研究をされました。このシステムは、痛みの様子について、「ズッキンズッキンと痛い」、「締め付けられるようなのか」などの質問に答えることで、人工知能が頭痛の原因の推定結果を出力するものです。

また、実用化・商品化した成果として、HELSMEXという自動診断システムが紹介されました。これは、血液検査、超音波検査など各種検査情報から、人工知能が診断名やアドバイスを自動作成するものです。医師のレポート作成時間が大幅に短縮されるだけでなく、検査結果の見落としを防ぐなど、医療安全にもインパクトがあるものです。

講義の後半には、現在の深層学習などによる人工知能について話題が移りました。津村先生は、因果関係が不明なままに利便性を優先しているところに、技術の危うさがあることを指摘されました。例えば、検査画像などから治療後を予測し、医療的効果が期待されないとの結果が出れば、治療が実施されないというケースが起こっ

てしまっているが、人工知能から出力されるのは限定された条件下での確率であり、人生を左右するような医療の判断材料となりうるのかという問題提起をされました。

開学から15年を過ぎ社会構造が変化する中で、進化する情報技術をどのように教育し、人間と調和させながらどのように発展させるかということは、我々に課せられた大きな宿題だと感じました。

いまいづみ かずや
教授 今泉 一哉



最終講義の様子

段階的なコラボレーションの学びを考えるワークショップを実施 ～教員の協働からスタート～

学長裁量経費によるプロジェクト「多職種の学生と教員による段階的なコラボレーション教育カリキュラムの開発」として、看護・医療栄養・医療情報の3学科が協働し、それぞれの専門性とチームとしての学習手法の開発に取り組んでいます。

2019年度は、2月23日に琉球大学医学部に隣接する、おきなわクリニカルシミュレーションセンターにおいてワークショップを行いました。参加者は看護学科2名、医療栄養学科1名、医療情報学科3名の教員でした。当初、学生の参加も予定していましたが、COVID-19の流行を鑑みて、今回は見送ることとしました。

活動の内容は、医療教育を専門にする琉球大学・大内 元先生の講演、グループワークによるアイデア出しなどを通して、より効果的な授業を行うための方策等について討論を重ねて、試行案を作成しました。

良い専門職であり、かつ、良いチームメンバーであるための教育プログラムとして、4年次の協働実践演習までに、各年次において段階的に実施する内容について、各学科の学習の進行度や到達目標と照らし合わせながら検討しました。

例えば、1年次においては、あえて専門性を前提としないテーマにおいて、経験学習の観点から物の製作や調理などを行うというアイデアが出されました。このような経験学習によって共有メンタルモデルの相違がチームでの活動に影響を与えること、目標を共有して物事をすすめることなど、チームとしての活動の基盤になるよ

うな学修をし得るのではないかと考えました。今後はカリキュラムの進行度との関係を整理しながら、試行的な実施を検討していきたいと考えています。

その後、COVID-19の感染拡大の影響で、コラボレーション教育の実施形態についても、遠隔授業なども含めて弾力的に考える必要がでてきましたが、より良い教育のための改善に取り組む機会と捉えて検討を進めていきたいと考えています。

いまいづみ かずや
教授 今泉 一哉



グループワークの様子

担任・副担任より 4年間の学生生活の過ごし方、期待、看護の道、担任としての抱負

今般の事情で通常とは異なるスタートとなりますが、私たち担任を含め、教職員一同、人生の様々な苦難や壁も、一緒に乗り越えていけるよう、精一杯、4年間、皆さんを支援してまいりたいと決意しております。

医療者は、ヒトの命や生活、夢や希望までもを左右する重要な職責を担います。そのため、プロとしての専門的知識や技術を磨くだけでなく、人間としての器磨き（教養も含め）、他者を慮れるプロとしての「矜持」を持った看護師になれるよう涵養教育も重要であると考えております。

そこで是非、学生のうちに国内外で様々な社会体験をし、広い視野で物事を捉えることができるよう、自己の時間管理をしながら、多くのことに興味・関心をもって、学生生活を楽しんでいただきたいと願っております。なぜなら、自分自身が幸せであることは、他者への愛が自然と生まれ、患者さんやそのご家族の未来を想像し、少しでも幸せになれる支援（愛）を創造できるからです。（中島）

東が丘看護学部は、「臨床での高度医療に対応できる看護実践能力を身につけ、自ら考え、判断し、行動できる自律した看護師“tomorrow's nurse”の育成」をめざし、特徴的な授業を実施しております。

2年次生で実施する「臨床検査学演習」では、診断・治療の基礎としての臨床検査の意義を理解することを目的とし、組織・病理学検査、臨床生理学検査、臨床化学検査、放射線検査等を学びます。

様々な臓器の組織切片を顕微鏡下で観察し、正常な細胞・組織構造とがん化した細胞・組織構造の違いを学んだり、血液検査の数値がどのような原理で導き出されるのか、またその数値の持つ意味を理解するため、自身の血液のヘモグロビン濃度やトリグリセライド濃度の測定などを行います。この演習により、臨床検査の原理と意義および検査により得られる情報と病態との関連を理解し、臨床判断に適用することができます。

このような特徴的な授業を取り入れることにより、本学部では自律した看護師“tomorrow's nurse”を育成しております。（小宇田）

小児看護学領域 教授 なかしま みつこ 中島 美津子（1年担任）
看護基礎学領域 准教授 こうだ ともこ 小宇田 智子（1年副担任）



新入生歓迎式（3密を避け、短時間で実施）

目標達成に向けた有意義な4年間を

新入生のみなさま、ご入学おめでとうございます。新型コロナウイルスにより例年とは異なる大学生活のスタートとなりました。大学生活に期待を寄せていたみなさんにとっては残念なことだと思います。これまで経験のない困難をみなさんと一緒に乗り越え、このような状況下においても有意義な大学生活を過ごし自己成長につなげていただきたいと思います。

大学では、専門的な知識・技術を修得するためには受け身ではなく能動的に学ぶ姿勢が必要です。さらに疑問や気づきに対して探求することを意識すれば学修したことが習熟されます。

立川看護学部では、他の大学には無い災害看護学を系統的に学ぶことが出来るカリキュラムを準備しています。多彩な講義科目、演習科目を配置しており、主体的に考え判断し、課題を解決する力が養われます。特に災害看護学の科目は、トリアージを行う授業や一次救命処置講習、災害医療センターの現役DMAT隊員による講義・指導もあり、より実践的に災害看護を学ぶことができます。看護学実習は、1年次の早期から医療の現場に触れる実習が組み込まれていることが特徴です。初めての病院実習で期待と不安が高まりますが、臨床の現場やモデルとなる看護を実際に体験することで、看護師への憧れが現実的な目標となります。4年次の災害看護学実習は立川看護学部のもう一つの特徴です。現役DMAT隊員、立川市防災センターの全面協力の下、トリアージ、外傷初期治療・看護、災害

体験などが盛り込まれ、臨場感のある実習を通して災害医療における看護職の役割機能について理解することができます。4年次には自分の希望する領域のゼミに所属し、災害看護学に関連したテーマを通して研究を行う力が身に付きます。

就職や看護師国家資格取得は、全教職員による支援体制を構築しています。ゼミの教員を中心とした支援に加え、各学年に担当教員を配置し、学年に合わせたガイダンスや学習支援を行っております。4年間の講義・演習・実習を通して、あらゆる状況や場で最善の看護を提供できる実践力を身に付けた“地域から信頼されるNurse”に成長して頂けると思います。

充実した実りある4年間にするためには、モチベーションを維持して目標達成できる精神力が必要です。そのためにも自己管理が重要です。特に健康に留意し、医療人として自律して健康管理ができるよう心掛けましょう。現在の状態がいつまで続くかわかりませんが、一日も早く収束し、みなさんとキャンパスでお会いできるのを楽しみにしています。みなさんにとって有意義な大学生活を過ごせるよう担任・副担任で支えていきます。

成人・老年看護学領域 准教授 ふじむら あきこ 藤村 朗子（1年担任）
精神看護学領域 准教授 たの まさたか 田野 将尊（1年副担任）

今こそ「思いやりの絆」を培い、看護の未来に踏み出そう

この度の新型コロナウイルス感染症に罹患された方とご家族・関係者の皆様に謹んでお見舞い申し上げます。

この記事の皆様がお読みの頃、果たして社会情勢がどう変化しているかもわからない事態ではありますが、心を平静に保ち八方に目を向けながら、教職員一同、できる限りの努力をしまっている所存でございます。

学生の皆さんには期待に満ち溢れていたはずの新学年での授業が、ICTを用いた遠隔開講の形となり、どれほどがっかりしているだろうかと想像します。通常であれば学友と助け合って取り組む技術演習やグループワークもできず、寂しさや焦りも感じているでしょう。相談窓口には、そんな学生からの問い合わせも少なくなく、教職員がひとりひとり相談に乗っています。

遠隔授業については、教職員は慣れない授業録画とその配信に奮闘しています。うなづいてくれ質問に答えてくれる学生のいない講義は想像以上に難しく、何度も撮り直してやっとアップにたどり着く状況です。教育者として、そこに存在する全員で創り上げていく「授業」というものの本質と価値を再考させられます。

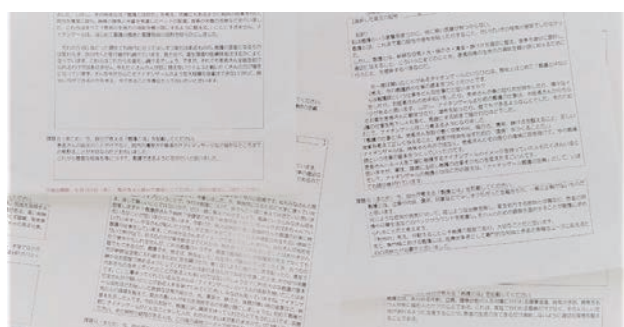
にもかかわらず、学生の皆さんから送られてくる動画視聴後の意見や感想の何と素晴らしいこと！皆んなこんなに勉強したかったんだと今更ながら驚くとともに、看護職をめざす者としての誇り、そして、リモートであったとしても繋がっていたいという切なる願いを感じます。

私の手元には、入学時に撮った学生ひとりひとりの写真があります。学生証用のものですのでまじめな顔つきばかりです。録画授業への感想を読みながら、一日も早く、本当の笑顔と一緒に授業がしたいという思いで目頭が熱くなります。

このような状況のなかではありますが、看護へは大きな期待が寄せられています。その期待を学修へのモチベーションとし、思いや

りの絆を糧に、進み続けてくれると信じています。引き続き、皆様のご支援ご協力を、何卒お願い申し上げます。

学部長 宮本 千津子



遠隔授業で提出された看護学概論（1年生）の課題
ディスクネットを通して届く提出物から積極的に学修に取り組む様子が
伝わってきます

新たな生活様式で実施した千葉看護学部Web学部説明会

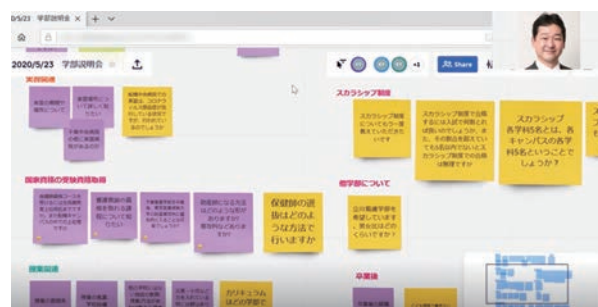
多くの大学が本学と同様に4月から遠隔授業を開始している一方で、高校では一部を除き、3月から2か月以上の休校措置がとられました。加えて、本年度より大学入試改革が始動されます。このような状況の中で大学受験に挑む高校3年生に対し、遅滞なく本学部の情報提供を行いたいと考え、5月23日（土）にライブ配信型のWeb学部説明会を開催しました。説明会の構成は、宮本学部長挨拶、入試広報部西村氏による大学および入試説明、教務委員長の清水教授による学部説明、大学施設・学生生活紹介、質疑応答で、インターネット環境による負荷を考慮し75分間としました。また、3密を避けるため発言者だけでなく、全ての関係者をインターネットで結びました。通常学内で実施する説明会では、在校生のアテンドによる施設見学と個別相談を実施していますが、それらに代わるものとして、学内の施設と学生生活を紹介する動画を作成しました。学生生活紹介の最後には、本年度入学した1年生6名による受験生に向けたメッセージ動画を流しました。現在学修している内容や自身の受験勉強方法など、COVID-19対策下で受験に取り組む高校生に向けた温かいメッセージを届けることができました。また、説明会登録時と開催中に質問を入力して送信してもらい、オンラインホワイトボードに整理して掲示し、最後に回答しました。

約150名の方にご参加いただき、「とてもわかりやすい説明で、知りたかったことがよくわかった」「大学で看護を学ぶという目標を

再認識できた」「大学の雰囲気の良いが伝わってきました」などのご感想をいただきました。

本学部は看護が必要とされるすべてのフィールドで社会の変化に呼応した看護を提供する自律した柔軟な創造力をもつ専門職の育成を目指しております。非常事態の中ゆえに、看護が必要とされる様々なフィールドがあること、学生と教職員が丸となり、この事態に対応しようと取り組んでいることが伝わったのではないかと思います。一日も早い収束を願いつつ、引き続き本学部の魅力を発信して参りたいと存じます。

広報委員会 たくほ ゆみこ
田久保 由美子



開催中に頂いた質問をオンラインボードに整理しました。

withコロナでガンバル和歌山看護学部の学生たち



COVID-19のパンデミックが想定され、4月の入学式は中止となり、全国の学校が登校自粛に追い込まれました。東京医療保健大学では3年前の開学時から、全学生に個人PCを貸与していました。その利点を活かすチャンスだと考え、4月2日・3日に新入学生に個人PCの配布と使用法のオリエンテーションなど

を「3つの密」を避けて行い、3学年の学生303人にリモート授業ができるようにし機材を整えました。

授業スケジュールは大きく変更することなく4月6日からはじまり、筆者は2日目に2年生の急性期看護援助論のリモート授業でした。数名の学生がPC操作に自信がないと登校していましたが、3回目からは全員自宅でリモート授業を受けていました。

学生の視点から突然のリモート授業をどのように捉えていたかについて、5月に実施したアンケート調査の結果から振り返ってみたいと思います。「リモート講義はどうですか?」の質問には、大変良い10%、まあまあ良い38%、ふつう49%あまり良くない3%、悪い0% (図1) という結果であり、97%の学生が好意的、肯定的に捉えている結果でした。

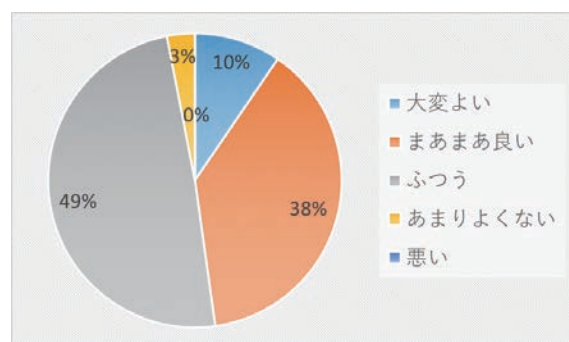
webアクセスについては良好が62.5%、時々途切れるが31.4%であり、6月現在でもwifi環境が不良でリモート授業の途中で落ちて、再度入りなおす学生が数名あります。また、リモート授業担当の教員は座り続ける姿勢でPC画面を見続けており対面授業とは異なった疲れがあります。学生の反応は目が疲れるという意見が82.6%

と多くあったため、授業を工夫し5分の休憩をいれて、ビデオとミュートを切って、自由に小運動する時間を入れるようにしました。

6月後半からは対面授業もはじまりますが、一部の学生からは「リモートのままで良い授業もあるよね。」と突然はじまった授業形態の良さも実感しているようでした。大学生活の新しい日常をwithコロナで柔軟に受け入れる力に明るい未来を感じました。

リモート授業は、3月後半から急ピッチで教員と事務部が一丸となって準備しました。その結果、大きなトラブルなく経過したことに安堵し、「結束する底力」と「素直で優秀な学生たち」に感謝いたします。

成人看護学領域 教授 ^{まつまき} 松月 みどり



(図1) リモート講義の評価

和歌山看護学研究科始動



和歌山看護学研究科は、12名の入学生を迎えてスタートしました。

桜の季節に入学式ができない中、4月8日に日赤和歌山医療センターキャンパス大教室で実施したガイダンスで学生と教職員が顔を合わせました。学修ガイダンス、貸与パソコンを活用した遠隔授業を行うための説明を短時間で実施しまし

た。少し緊張し、学ぼうという強い意志をもつ学生たちの目の輝きに私たち教職員も共に頑張ろうと決意を新たにしました。

学生にとっては大学院で学ぶという初めての体験に加え、遠隔授業は大変なストレスであったかと思えます。教員にとっても遠隔授業は初めての取り組みでしたが、4月13日に時間割通りに授業を開始しました。6・7限目を中心にした時間割ですので授業開始時刻までに自宅に戻れない学生には所定の手続きを踏むことを条件にキャンパス内の大教室を開放しています。仕事との両立で大変という声が聞かれますが、努力して出席できています。科目等履修生3名も含め、学生たちはよく発言し、対面授業でのディスカッションができる日を楽しみにしています。

また、次年度に向けては、入試広報委員会が動画撮影や説明会、Web個別相談会の企画など、新しい広報活動を進めています。

学生は『包括ケア』ということに期待を持っています。入学後に専門領域を決定することになっていますので、『包括ケアマネジメント学』、『包括ケア実践学』、『包括ケア教育学』のどの領域で自分の研究課題に取り組めるかを考えているところです。直接の指導ができない状況ですが、学生たちの課題への取り組みを支援していきたいと思っています。

研究科長 ^{やしま たまこ} 八島 妙子



ガイダンスの様子

「未来デザインを学ぶ」



私は、都内急性期病院で看護師・専従医療安全管理担当者として勤務しながら、修士課程に在籍しています。以前より、領域や分野を飛び越え、未来を見据えた時代に合うサービス・マネジメントやサービス・デザインのスキルを身につけたいと考えていました。そこで、それらを実現するための第一歩として、組織

や社会を包括的に捉えられる看護マネジメント学を学びたいと思い大学院への進学を希望しました。

第一線で活躍されている先生方の講義では、知識や理論、研究の基本的法論、新しい組織や人材育成について網羅的に学ぶことができます。そこで得た知識が、自分の経験とどう繋がるか、自分の価値観を取り除いたクリアな視点で思考を鍛えることができます。先生方、院生と共に進むディスカッションでは、多様な専門性や価値観に触れられ、新たな視点や物事を多角的に考える力が身につきます。働きながら学び、広い視点で最適解を見出す視点を身につけ、すぐに実践できることは、社会人大学院生のメリットの一つであると、日々実感しています。

私たちは、忙しいと目先のことだけに追われてしまいがちですが、目指す未来に向けて考えて行動すると、知らなかった景色が見

えて、仕事と人生に新しい変化をもたらしてくれると思います。先生方は、常に協力的で、院生を学生としてだけでなく、キャリアを持つ社会人として尊重し、熱心にご指導くださいます。また、カリキュラムと履修スケジュールは、仕事を続けながら学べるように綿密に吟味されているため、仲間と励まし合いながら学び、研究に取り組むことができます。このような環境を与えてくださった先生方、大学院の仲間、家族、友人達、職場の方々に感謝しています。

入学してからの1年間は、楽しく充実していて本当にあっという間でした。2年目も、大学院で得た知識や研究能力をもとに、個人とチームが未来に希望を持てるような人材の育成、組織づくりに貢献できるように、一層充実させていきたいと思っています。



デスクワークだけでなく
院内ラウンドも大切

医療保健学研究科 修士課程2年
看護マネジメント学領域
小川 美智子

大学院で看護師院生さんたちと共に学びたい —むずかしいことをやさしく やさしいことをふかく—



全国で新たに大学院修士課程に入学する者は約73,000人、うち約1割の約7,800人が社会人入学者である（文部科学省「学校基本統計」）。一方、看護系大学院の修士新入学者は約2,700人（2019年度看護大学に係る基礎データ）。看護学部卒業後そのまま大学院に進学する人はわずかであろうから、世の中の社会人大学生のうち看護師の占める割合はかなり高いのではないかと推察する。

前置きが長くなったが、言いたかったのは看護師は本当に生涯学び続ける人たちだということ。元々学び好きかは不明だが、人命にかかわるという職業柄や学びたい者に寛容な職場環境も影響しているのかもしれない。そこは今後（社会のためになるなら）研究したいところだが、実感としてこんなに勉強している職種、特に働く女性ではほかにいないと思う。

なぜそんなことが気になるかというと、私が看護師ではないからだ。遅ればせながら自己紹介をすると、私は大学卒業後、就職氷河期になんとか滑り込み就職したものの、何か足りない思いで大学院に進学し、興味があった医療経済学を少々学んだ。そこで教授の書籍を出版社の人と一緒に作っていったことで、本を作るという仕事に興味をもち修了後、医療系の出版社に就職した。驚いたのは医療系の出版社は看護で成り立っているという事実だった。医学書は売れないが、看護書、看護雑誌は売れるのである。それも当然、働く学び好きの対象者が160万人もいるのだから、マーケットは大きい。

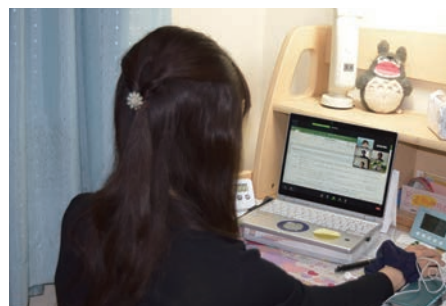
お客様としてだけでなく、著者としても多くの看護師にお世話になった。最初は難解な看護の世界の原稿に疑問を出し、教えられ、校正し、いい作品になるのは楽しかった。その後、縁あって日本看護協会では看護師と同僚として働き、今は大学院で看護師の先生方や院生と接しているから不思議だ。だからなおさら看護師は学び好きと感じるのかもしれない。

さてコロナ感染症拡大に伴い、令和2年度は対面ではなくzoomで新入院生を迎えた。不安を拭い去るように、領域の先生方がオンライン講義をガシガシ進め、院生も応え双方向のやりとりがなかったことに感銘を覚えている。大学院は議論あってこそと思う。正解のない問いに対し一度自分で調べ結論を出すも、人の意見から学び、気づかされることは多々ある。

「むずかしいことをやさしく、やさしいことをふかく、ふかいことをおもしろく、おもしろいことをまじめに、まじめなことをゆかいに、そしてゆかいなことはあくまでゆかいに」（井上やすし）

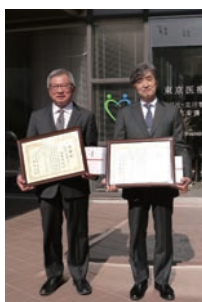
私の好きな言葉だ。看護師院生の皆さんとこのように議論し、共に学んでいきたいと思っている。大変微力ながらよろしく願いいたします。

助教 本谷 園子



Zoomにて新入院生たちと交流

10年間の功績に感謝を込めて ～臨床教授お二人に感謝状を贈呈～



看護学研究科が開設された平成22年4月、救急医療などの現場であるクリティカル領域で活躍できる診療看護師（NP、ナースプラクティショナー）の育成を目的として、修士課程高度実践看護コースの教育はスタートいたしました。そして、令和元年度、開設10周年となる記念すべき年に、当初より臨床教授として携わっていただいた東京医療センター統括診療部長の磯部陽先生と、同じく救命救急センター長の菊野隆明先生が退官されることを受けて、感謝状の贈呈式を挙行いたしました^{*1}。

令和2年3月18日、東京医療センターより院長の大島久二先生、本学より副学長で看護学研究科長の草間朋子教授、副学長の山西文子教授、田村聡明副理事同席のもと、田村哲夫理事長よりお二人に感謝状を贈呈いたしました^{*1}。

看護学研究科は開設当初より独立行政法人国立病院機構と連携し、所属する医師や医療従事者の皆様に臨床教授等として講義や実習をご担当いただいております。特に東京医療センターの先生方には、高度実践看護コース立ち上げの時からご尽力いただきました。

この10年間、磯部先生には統括診療部長として実習のご指導をいただき、また外科医長として丁寧に講義をしていただきました。菊野先生には、多くのクリティカル領域に関する講義をご担当いただき、救命救急センターではたくさんの実習生を受け入れていただきました。お二人にご指導いただいた修了生は、現在、全国で活躍しています。

本来であれば、お二人には3月18日に最終講義をしていただく予定でした。磯部先生は「JNP^{*2}導入による急性期病院での成果とその役割及び今後への期待」、菊野先生は「NP大学院教育10年間で残したものと、将来のNP教育への期待」という内容で講義の準備を進めてくださいました。また、在学生だけでなく、遠方の修了生からも

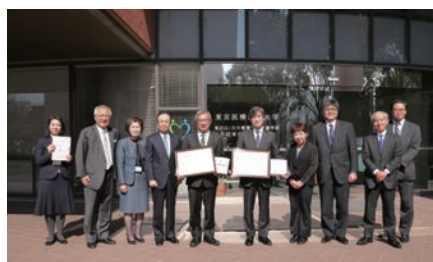
参加希望の連絡を多数いただいております。しかし、新型コロナウイルスの流行に伴い、感染拡大防止の観点から、最終講義は中止せざるを得ない状況となりました。非常に残念です。

最後になりますが、磯部先生、菊野先生には改めて感謝申し上げます。10年間、本学の教育に多大なご支援を賜りまして、本当にありがとうございました。

※1 臨床教授の先生方および感謝状贈呈式出席者の役職は、令和2年3月時点のものです。

※2 「JNP」はJapan Nurse Practitionerの略であり、国立病院機構における呼称名です。

東が丘事務部主任 鎌田 りみ かまた



磯部先生、菊野先生を囲んで記念撮影



田村理事長より磯部先生へ感謝状の贈呈

遠隔死亡診断が可能に ～在宅での穏やかな看取りに寄り添って～

高齢化に伴い亡くなる方が増える時代を迎える中、自宅や介護施設、離島など医師がすぐに駆け付けられない場面が存在します。そこで「規制改革実施計画」（平成28年6月2日閣議決定）において、在宅での穏やかな看取りが困難な状況に対応するため、平成29年9月に厚生労働省より「情報通信機器（ICT）を用いた死亡診断等ガイドライン」策定されました。これは、医師がスマートフォンなどを通じて看護師からの報告を受け、患者さんの状況を把握することで、死亡の事実の確認や異状がないと判断し、死亡診断書の交付ができるというものです。これには、医師による直接対面での診療の経過から早晚死亡が予測されること、終末期の対応について事前の取り決めがあるなど、医師と看護師の十分な連携が取れており、患者さんやご家族の同意があることなどの条件があります。

また、ICTを用いた死亡診断を行える看護師は法医学等に関する一定の教育を受ける必要があります。大学院看護学研究科では、この教育において法医学に関する一般講義だけでなく、訪問診療の医師と患者さんの実際の看取り場면을題材にした映画、訪問診療で日々患者さんの死と向き合っている医師からの講義から、人生の最終段階の医療・ケアについて考えることができました。また、本人

や介護者にはさまざまな不安があること、医療・ケアの決定プロセスにおいては本人の願う自律と介護者の願う安全との葛藤があることなどを学ぶことができました。実際にスマートフォンを使用した死亡診断に至るまでのシミュレーションでは、写真を撮って記録を書くことにどれくらい時間を有するか、患者さん、ご家族にどのように声をかけるか、医師にはどのように報告をするか、など一連の流れを学ぶことができました。

実際にICTを用いた死亡診断を行うには、看護師としての実務経験5年以上を有し、訪問看護または介護保険施設等において3年以上の実務経験を有することなどの条件があります。今は急性期病院で診療看護師（NP）として働いていますが、病院で医師が当たり前にいる状況と、そうでない状況の違いというものを考えさせられました。将来地域医療などで働く際には、患者さんやご家族の在宅での穏やかな看取りに寄り添えるよう、今回学んだことを生かしていきたいと思うと共に、将来を見据えて学生時代に学びのチャンスがあることに感謝申し上げたい。

東京医療センター 診療看護師 としみつ まりこ 利光 恵利子
(看護学研究科第9期修了生)

10名(2期生)のがん放射線療法看護認定看護師の卵が誕生

中国・武漢に端を発し、あっという間に世界中を恐怖のどん底に陥れているCOVID-19の先が見えず閉塞感が漂う中、本センターでは、桜と菜の花が咲き誇るもとので、がん放射線療法看護認定看護師養成課程の修了生10名に「修了証書」を手渡すことができました。ひと時の休みも許されない極めて厳しい課程を、昨年7月に入学した10名全員がそろって修了できましたことは関係者の皆様のご協力・ご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

認定看護師の卵として使命感に燃えて新たなスタートを切った各修了生の修了にあたっての一言を紹介させていただきます。

- *「全員揃って必ず乗り越えよう」と学び合う私たちを、先生方が全力で支えて下さいました。一緒に泣き、笑った仲間は、一生の宝です。本当に濃い9か月でした(大谷)。
- *わからないこと、辛いことも先生方のご指導の下、一緒に学ぶ仲間がいるから頑張ることができました。これから先も仲間と共に自分なりのがん放射線療法看護の道を切り開いていきます(岡本)。
- *本当に不安で辛い思いもしましたが、一生の宝物も得ました。今後も忘れず日々前進していきたいです(小林)。
- *養成課程でがん放射線看護について学び、仲間や先生方、専門・認定看護師の講師の方々とお会いしたことは、今後自分が施設で悩んだ時の心強い支えになると考えています(塩崎)。
- *がん放射線療法看護のエキスパートである先輩方からやりがいやおもしろさを沢山学びました。これからは自分が後輩達に伝えていきます。草間センター長の“自律”“感謝”“謙虚”の教えを忘れずに実践していきます(鈴木)。
- *先生方や一緒に学んだ仲間との強い絆ができ、実習ではよい看護モデルである指導者と出会うことができました。看護師としての成長につながる教育課程でした(塚本)。

- *講義・実習を通して、個別性に合わせた患者・家族への支援・看護の大切さを学ぶことができました。辛いこともありましたが、大切な仲間と出会い乗り越えることができ、人生の宝になりました(土尻)。
- *EBNの重要性を実感することができました。今後は、認定看護師としての実践・教育・相談の役割を、根柢を大切に果たしていきます。自己の力量を見極め、系統的に学ぶ大切さを認識する機会になりました(沼口)。
- *がん放射線療法看護領域に苦手意識をもっていた私でした。優しくて頼りがいのある仲間とユーモアのある先生方に恵まれたことが1番の財産です。課程での学びを生かした活動をしていきます(羽根田)。
- *より多角的に患者さんをアセスメントし、それぞれの患者さんの個性を大切に寄り添って看護をしていくこと、見たこと実践したことを言語化することの重要性について学びました(比留間)。

放射線看護研修センター がん放射線療法看護認定看護師課程
センター長 おおしま ひさじ 大島 久二
主任教員 みかみ けいこ 三上 恵子



産後ケア研究センター

2016年6月より品川区との官学連携事業として産後ケア事業が開始され、2018年4月、更なる事業拡大に伴い本学産後ケア研究センターが開設され3年目を迎えました。

品川区民を対象とした産後ケア事業(日帰り型・訪問型・電話相談)が幅広く周知され、下記の実績報告の通り、2019年度は昨年度の実績を上回る利用件数となっております。

また、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、4月7日から5月31日まで、緊急事態宣言が発出され、日帰り型は休止、訪問型におきましては利用者様からのご依頼があれば実施し、電話相談は通常通り受付をしております。在宅勤務の増加に伴い、DVや虐待に関する報告もある事より、そのニーズは高まっているといえます。

このような状況下で、電話相談件数が1月～3月は80件/月を超え、4月の電話相談件数は、87件と今年に入り急激な増加傾向にあります。電話相談の内容は、乳房トラブル、授乳指導、赤ちゃんの成長についての相談・ケアなどに加え、利用者の方の体調の相談、育児相談なども多く、緊急性があると判断した場合は医療機関等に紹介し、さらに医療機関受診後の電話相談フォローに繋げて経過を観るなど、きめ細やかな対応をするように心がけております。

今後も区との連携を図りながらこの緊急事態の中で、利用者のニーズに応えるべく、質の保証された良いケアを実施し、問題解決ができるように事業を運営していきたいと思っております。

(産後ケア研究センター)

実績報告

	日帰り型／稼働率	訪問型(件)	電話相談(件)
2018年度実績	259件／96.3%	304件	315件
2019年度実績	325件／98.2%	344件	639件

情報教育研究センター

「情報スタディラボ」開設2年目を迎えて

情報教育研究センターは、医療情報科学学生の資格取得支援機関として平成30年10月に開設以来、2年目を迎えました。経済産業省が推進する、医療産業界における高度IT人材の育成を目指し、資格試験や検定試験に関する幅広いサポートを行っています。

支援対象の試験については、始動時から対応したITパスポート試験、基本（応用）情報技術者試験、医療情報基礎知識検定、医療情報技術師能力検定に加え、新たに診療情報管理士認定試験、医業経営管理能力検定、情報セキュリティマネジメント試験に対応し、申込から合格後のアフターフォローまできめ細かくサポートを強化しております。

更に、学習・受験意欲向上を目的とした各種対策講座やイベントを企画しており、効率的な学習方法を身に着ける「学習方法講座」は、年2回の定期開催を基本として、既に3回実施しております。

また、昨年12月には、開設1周年を記念した特別イベント「起業

家講演会」を開催しました。医療福祉業界でご活躍中の若手起業家の方をお呼びし、医療産業の将来性、これからの時代の働き方、ご自身の企業経験などについてお話しいただき、参加した学生にとって、資格の活用やキャリア形成などを考える大きな機会となりました。

学習スペースとしても開放しており、室内閲覧用として、資格試験に関連した参考書や過去問題集を多数設置しています。学習目的での利用者も増え、ホワイトボードを使って教え合いをする様子も見受けられました。

現在、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて各種試験が次々と中止を発表しており、逆境の中ではありますが、新年度、そして2年目を迎えた今、資格取得の意義や重要性を改めて周知し、受験支援や学習へのサポートを引き続き行ってまいります。

(学生募集部)

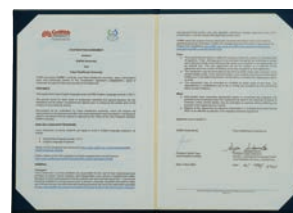


国際交流 International Exchange

グリフィス大学と提携合意書を締結

国際交流委員会では、かねてよりグリフィス大学と正式な交流提携を行うことを目指し、同大学国際関係部門と話し合いを続けてきました。去る2月の学部長等会議および3月の大学経営会議での審議を経て、同大学との合意書締結が本学として正式に決定されました。これを受けてすぐに合意書への署名が行われる予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の問題によりその手続きが遅れておりました。しかし、このたび、グリフィス大学国際部門担当副学長のSarah Todd氏と本学の坂本が国際交流センター長が、その合意書にそ

れぞれ無事に署名を終え、これによって、グリフィス大学と本学との間に正式な提携関係が成立しました。



グリフィス大学との提携合意書
(全4枚中 P1とP3)

ハワイ研修中止の報告

国際交流委員会では、本年3月15日～23日の予定でハワイ研修を実施する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の急激な流行のために、中止いたしました。中止に当たっては、数回に渡って木村学長を含む関係者間で協議を行い、最終的に学生の安全を第一に考えると中止が望ましいという結論に至りました。なお、キャンセル料の支払いは一部発生いたしましたが、各学部および大学の配慮によって、学生へのキャンセル料の負担は求めないことが決定し、事前に支払われた研修費用は各学生へ全額返金されました。支払い手続きも3月末に全て完了いたしました。

本年度の海外研修に関しては、6月8日にZoomにより国際交流

委員会を開催し、次のような方向で検討を進めることとなりました。オーストラリア研修は、現時点でもオーストラリアとの間では、相互に渡航禁止となっているため、9月に現地研修を計画することは難しいということで意見が一致しました。そのため、今年度のオーストラリア研修は、オンライン研修の実施を検討することとなりました。例年3月に実施しているハワイ研修に関しては、まだ少し時間があることから、今後の状況を注視しながら、現地研修の実施の可否を慎重に検討することとなりました。

国際交流アドバイザー 早野 真佐子

令和2年度 学生募集に係る入試実施結果

() は前年度 (単位: 人)

学部	学科	募集定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
医療保健学部	看護学科	(100) 100	(1,714) 1,110	(1,624) 1,028	(370) 294	(118) 104
	医療栄養学科	(100) 100	(334) 274	(311) 254	(266) 230	(94) 98
	医療情報学科	(80) 80	(144) 164	(137) 158	(129) 149	(70) 92
	合計	(280) 280	(2,192) 1,548	(2,072) 1,440	(765) 673	(282) 294
東が丘看護学部	看護学科	100 (200)	(821) 672	(779) 612	(240) 249	(106) 115
立川看護学部	看護学科	100	(489) 656	(453) 605	(182) 237	(113) 118
千葉看護学部	看護学科	(100) 100	(809) 751	(774) 695	(303) 253	(107) 115
和歌山看護学部	看護学科	(90) 90	(492) 349	(475) 328	(157) 185	(100) 104
助産学専攻科		(15) 15	(63) 58	(63) 55	(20) 20	(20) 20

※東が丘看護学部、立川看護学部の前年度数字は、東が丘・立川看護学部看護学科の臨床看護学コース、災害看護学コースの数値

(入試広報部)

令和元年度 決算報告 (速報値)

(単位: 百万円)

	法人		東京医療保健大学		青葉学園幼稚園		野沢こども園		合計		予算増減
	予算	実績	予算	実績	予算	実績	予算	実績	予算	実績	
教育活動収入計	41.0	42.4	4,765.9	4,766.4	215.3	232.3	273.3	285.6	5,295.5	5,326.7	31.2
教育活動支出計	73.3	71.1	5,184.5	5,250.1	175.4	177.0	257.3	257.2	5,690.5	5,755.4	64.9
教育活動収支差額	▲ 32.3	▲ 28.7	▲ 418.6	▲ 483.7	39.9	55.3	16.0	28.4	▲ 395.0	▲ 428.7	▲ 33.7
教育活動外収入計	0.0	0.0	1.7	2.5	0.0	0.0	0.0	0.1	1.7	2.6	0.9
教育活動外支出計	0.0	0.0	35.5	35.2	0.7	0.4	0.0	0.0	36.2	35.6	▲ 0.6
教育活動外収支差額	0.0	0.0	▲ 33.8	▲ 32.7	▲ 0.7	▲ 0.4	0.0	0.1	▲ 34.5	▲ 33.0	1.5
特別収入計	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	7.7	0.0	0.0	100.0	107.7	7.7
特別支出計	0.0	0.0	7.0	11.8	0.0	0.0	0.0	0.0	7.0	11.8	4.8
特別収支差額	0.0	0.0	93.0	88.2	0.0	7.7	0.0	0.0	93.0	95.9	2.9
予備費	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
事業活動収入計	41.0	42.4	4,867.6	4,868.9	215.3	240.0	273.3	285.7	5,397.2	5,437.0	39.8
事業活動支出計	73.3	71.1	5,227.0	5,297.1	176.1	177.4	257.3	257.2	5,733.7	5,802.8	69.1
基本金組入前収支差額	▲ 32.3	▲ 28.7	▲ 359.4	▲ 428.2	39.2	62.6	16.0	28.5	▲ 336.5	▲ 365.8	▲ 29.3
減価償却①	0.5	0.6	573.9	572.2	9.4	8.6	7.0	4.3	590.8	585.7	▲ 5.1
退職金引当金繰入②	0.0	0.0	57.0	69.9	0.0	0.0	0.0	0.0	57.0	69.9	12.9
資産処分差額③	0.0	0.0	7.0	11.8	0.0	0.0	0.0	0.0	7.0	11.8	4.8
除く①②③収支差額	▲ 31.8	▲ 28.1	278.5	225.7	48.6	71.2	23.0	32.8	318.3	301.6	▲ 16.7

(経理財務部)

令和元年度 各種国家試験受験結果一覧

令和元年度の各種国家試験の受験結果は以下のとおりです。

受験者数・合格者数の（ ）は新卒者で内数である。

【看護師国家試験】	医療保健学部 看護学科				東が丘・立川看護学部 看護学科							
	平成30年度		令和元年度		平成30年度		令和元年度					
	—	—	—	—	臨床看護学コース	災害看護学コース	臨床看護学コース	災害看護学コース				
試験実施年月日	31. 2. 17		R2. 2. 16		31. 2. 17		R2. 2. 16					
合格発表年月日	31. 3. 22		R2. 3. 19		31. 3. 22		R2. 3. 19					
本学受験者数	13,287	103名	(110)	113名	(109)	109名	(88)	88名	(104)	105名	(98)	101名
本学合格者数	(100)	100名	(109)	111名	(106)	106名	(85)	85名	(99)	100名	(95)	98名
合格率	(97.1)	97.1%	(99.1)	98.2%	(97.2%)	97.2%	(96.6%)	96.6%	(95.2%)	95.2%	(97.0%)	97.0%
全国平均合格率（新卒）	94.7%		94.7%		94.7%		94.7%					
全国平均合格率（全体）	89.3%		89.2%		89.3%		89.2%					

【保健師国家試験】	医療保健学部 看護学科			
	平成30年度	令和元年度		
試験実施年月日	31. 2. 15	R2. 2. 14		
合格発表年月日	31. 3. 22	R2. 3. 19		
本学受験者数	(20)	20名	(19名)	19名
本学合格者数	(18)	18名	(19名)	19名
合格率	(90.0%)	90.0%	(100.0%)	100.0%
全国平均合格率（新卒）	88.1%		96.3%	
全国平均合格率（全体）	81.8%		91.5%	

【助産師国家試験】	助産学専攻科		大学院看護学研究科 高度実践助産コース			
	平成30年度	令和元年度	30年度	令和元年度		
試験実施年月日	31. 2. 14	R2. 2. 13	31. 2. 14	R2. 2. 13		
合格発表年月日	31. 3. 22	R2. 3. 19	31. 3. 22	R2. 3. 19		
本学受験者数	(19名)	19名	(18)	18名	8名	7名
本学合格者数	(19名)	19名	(18)	18名	8名	7名
合格率	(100.0%)	100.0%	(100.0%)	100.0%	100.0%	100.0%
全国平均合格率（新卒）	99.4%		99.5%		99.9%	99.5%
全国平均合格率（全体）	98.7%		99.4%		99.6%	99.4%

【管理栄養士国家試験】	医療保健学部 医療栄養学科			
	平成30年度	令和元年度		
試験実施年月日	31. 3. 3	R2. 3. 1		
合格発表年月日	31. 3. 29	R2. 3. 27		
本学受験者数	(81)	81名	(99)	99名
本学合格者数	(79)	79名	(85)	85名
合格率	(97.5%)	97.5%	(85.9%)	85.9%
全国平均合格率（新卒）	95.5%		92.4%	
全国平均合格率（全体）	60.4%		61.9%	

(教務部)

1. 概況

- 本学の令和元年度卒業生の就職率は100%です。(昨年100%)
- 文部科学、厚生労働両省による今春卒業大学生の4月1日現在の就職率は、98.0%でした。(昨年97.6%)

2. 各学科の状況 ※各学科の下記データは平成28年度入学生

(1) 医療保健学部 医療情報学科

就職率：100% (昨年：100%) (人)

就職希望	就 職	20
	未 就 職	0
進 学	大 学 院	0
	大学、専門学校等	1
その他※		1
計		22

その他※：自営業

(2) 医療保健学部 医療栄養学科

就職率：100% (昨年：100%) (人)

就職希望	就 職	98
	未 就 職	0
進 学	大 学 院	0
	大学、専門学校等	0
その他※		3
計		101

その他※：卒業に専念 (1)、婚姻 (2)

(3) 医療保健学部 看護学科

就職率：100% (昨年：100%) (人)

就職希望	就 職	病 院	97
		保健師	1
		他	2
未 就 職			0
進 学	本学大学院、助産学専攻科		7
	大 学 院 等		0
その他			0
計			107

(4) 東が丘・立川看護学部 看護学科

就職率：100% (昨年：100%) (人)

			計	臨床	災害
就職希望	就 職	病 院	180	89	91
		他	2	0	2
未 就 職			0	0	0
進 学	本学大学院、助産学専攻科		2	2	0
	大 学 院 等		2	1	1
その他※			4	4	0
計			190	96	94

コース別就職率：100% 100%

その他※：国家資格取得に専念

(5) 助産学専攻科

就職率：100% (昨年：100%) (人)

就職希望	就 職	18
	未 就 職	0
計		18

3. 主な就職先、進学先

医療保健学部看護学科

【就職先】 NTT東日本関東病院、災害医療センター、埼玉病院、東京都済生会中央病院、済生会横浜市東部病院、日本赤十字社医療センター、日本赤十字社さいたま赤十字病院、千葉大学医学部附属病院、東京医科歯科大学医学部附属病院、北里大学病院、東邦大学医療センター大森病院、日本大学医学部附属板橋病院、大田病院、がん研究会有明病院、横須賀共済病院、東京警察病院、東京通信病院、三井記念病院、杉並区、等 【進学先】 本学助産学専攻科

医療保健学部医療栄養学科

【就職先】 IMS (板橋中央総合病院) グループ、上尾中央総合病院、筑波記念病院、帝京大学医学部附属病院、医療法人財団百葉の会、エームサービス株式会社、株式会社グリーンハウス、日清医療食品株式会社、富士産業株式会社、株式会社LEOC、ウエルシア薬局株式会社、スギホールディングス株式会社、株式会社富士薬品、株式会社こどもの森、株式会社ポピンズ、株式会社モード・プランニング・ジャパン、トヨタ自動車株式会社、航空自衛隊、さいたま市、東京都、等

医療保健学部医療情報学科

【就職先】 社会医療法人河北医療財団、常盤台外科病院、戸田中央医科グループ、株式会社アイエスエフネット、株式会社エスピーク、株式会社CIJネクスト、株式会社スカイウイル、株式会社ゼネット、富士通株式会社、東京サラヤ株式会社、ウィンパートナーズ株式会社、村中医療機器株式会社、トヨタ紡織株式会社、横浜市立大学、等

東が丘・立川看護学部看護学科

【就職先】 災害医療センター、東京医療センター、東京病院、国立国際医療研究センター病院、国立成育医療研究センター、国立精神・神経医療研究センター、東京都立小児総合医療センター、東京都済生会中央病院、済生会横浜市東部病院、東京医科大学病院、東京医科大学八王子医療センター、自治医科大学附属さいたま医療センター、順天堂大学医学部附属練馬病院、日本医科大学付属病院、東邦大学医療センター大森病院、井之頭病院、がん研究会有明病院、虎の門病院、三井記念病院、海上自衛隊、等 【進学先】 本学大学院看護学研究科、本学助産学専攻科、聖路加国際大学大学院、日本赤十字社助産師学校

助産学専攻科

【就職先】 北里大学病院、東邦大学医療センター大森病院、東京女子医科大学病院、昭和大学病院、日本赤十字社医療センター、東京慈恵会医科大学附属病院、東京大学医学部附属病院、等

(学生支援センター)

「令和元年度学位記授与式・修了式」を挙行



2020年3月3日(火)東京国際フォーラムにおいて学位記授与式を挙行し、新しい元号「令和」になってから初めての卒業生・修了生506名が東京医療保健大学を巣立って行きました。今年度の卒業生代表挨拶は、学業優秀として学長賞を受賞した医療保健学部 看護学科の三原綾乃さんが務め、学生生活を支えてくださった家族や教職員、友人たちへの感謝の気持ちと将来の抱負を語ってくださいました。また在校生代表として、学友会会長の医療保健学部 医療情報学科の川上円佳さんが「先輩方が築き上げてこられた伝統を受

け継いでまいります」と送辞を述べました。

新型コロナウイルス感染症拡大でイベント中止が相次ぐなか、本学ではご来賓や卒業生のご家族に対しご出席見合わせのお願いをし、規模縮小、時間短縮で執り行うことといたしました。開催当日は、入り口でマスク着用、手指のアルコール消毒を徹底し、座席の間隔を大きくあけるなど感染防止の措置を講じつつ、晴れ姿に身を包んだ卒業生、修了生らの新しい門出を祝いました。

(学生支援センター)

令和元年度 卒業生・修了生数			
大学院	医療保健学研究科	博士課程	2名
		修士課程	32名
	看護学研究科	博士課程	3名
		修士課程	21名
助産学専攻科			18名
医療保健学部	看護学科		109名
	医療栄養学科		100名
	医療情報学科		18名
東が丘・立川看護学部	看護学科	臨床看護学コース	104名
		災害看護学コース	99名
合計			506名



卒業生代表 三原さん



学友会 会長 川上さん



座席の間隔を空け、マスクを着用

東京医療保健大学 同窓会紹介

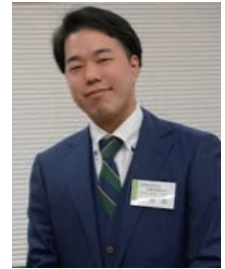
<会長挨拶>

まず、この度の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に関連し、母校において授業運営や学生サポートに尽力くださっております東京医療保健大学の教職員の方々に心より感謝申し上げます。

また、医療人としてこの国家の非常時に際し、大学の教育理念である「生命・いのち」「思いやり」「人の絆」「愛」を胸に社会にて活躍をしている同窓生におかれましても心より感謝申し上げます。

今号では、「各方面で活躍する同窓生の紹介」の第一弾として、ご紹介も兼ね副会長の2名より協力をいただきました。今後も同企画を継続して展開していくことを検討しておりますので、ご期待ください。

大変厳しい日が続きますが、皆で力を合わせてこの難局を乗り越えた暁に、再び同窓会で会いできますことを楽しみにしております。



東京医療保健大学同窓会
第3代会長 浅香 樹

各方面で活躍する同窓生の紹介

在学中、実習時に患者様とした約束を胸に日々看護業務に勤めています。

《現在従事している仕事》

現在、医療法人社団誠善会 千葉中央メディカルセンターにて、看護師として内科・循環器内科病棟に勤務しています。慢性疾患で入院を繰り返す方が多くおり、退院後の生活を見据えた関わりの大切さを実感しています。また終末期の患者様も多くおり、お看取りに立ち会うこともありませす。そんな中、看護の難しさに悩みながらもやり甲斐を感じ、日々楽しく働いています。

《東京医療保健大学に入学したきっかけ》

オープンキャンパスに参加したところ、学生と教員の距離が近く、雰囲気の良いことに惹かれ入学を決めました。また、入学した医療保健学部看護学科では、主な実習病院であるNTT東日本関東病院が大学に隣接していたことも魅力でした。

《在学中の思い出》

一番の思い出は実習です。記録物など大変なこともありましたが、患者様と直接関わりケアの実践が出来たことは、何よりも嬉しかったです。また、一番初めに受け持たせて頂いた患者様とした約束を今でも覚えており、日々看護業務にあたる上で大切にしています。実際に患者様と関わり、学ぶことができた実習は、今でも大切な思い出です。

《同窓生・在学生等へのメッセージ》

新型コロナウイルス感染症の流行により、授業や実習の遅れなど、在学中の皆様も不安を抱えていることと思います。大学4年間はあっという間に過ぎていきます。社会に出てから焦ったり、悔やんだりすることがないように、有意義な日々を過ごしてください。



深山 侑里さん

【医療法人 社団誠善会
千葉中央メディカルセンター】
医療保健学部 看護学科 卒
2010年度入学 6期生

医療人として、障がい者と健常者の共生社会を目指し、支援事業を行っています。

《現在従事している仕事》

東京2020パラリンピックをきっかけに国民の関心が高まったパラスポーツを通して、障がい者と健常者が当たり前に混ざり合う共生社会の実現を目指し、パラスポーツ競技団体、選手のサポート事業を行っています。

《東京医療保健大学に入学したきっかけ》

オープンキャンパスに参加した際、大学のアットホームな雰囲気や、若い大学だからこそ自分たちの手で大学を作りあげている先輩たちを見て、自分自身も多くの事に挑戦できるチャンスがある、そのような魅力を感じ東京医療保健大学に入学を決めました。

《在学中の思い出》

在学中は、学友会に所属し、2年次と3年次に大学祭実行委員長として、2年間大学祭に携わったことは一生忘れることのない思い出です。大学祭の成功を目指し試行錯誤のない日はありませんでした。大学の講義や課題との両立に苦労したのも今となっては良い思い出です。（笑）

結果として、上手くいったことも、失敗したこともたくさんありましたが、この経験は、社会人になった今でも支えとなり大きく役立っています。

《同窓生・在学生等へのメッセージ》

新型コロナウイルス感染症の影響もあり自由に外出することができず、ストレスの溜まる日々を送っている人も多くかと思えます。ただ、今だからこそ自分にできる事、挑戦したい事を見つけ、この期間があったからこそ自分自身が成長できた、新しい自分を発見できた、そんな時間を過ごして頂ければ良いなと思っています。在学生の皆さんは特に、大学に在籍する4年間という貴重な時間に後悔の無いよう頑張ってください。応援しています。



岡田 遼平さん

【一般社団法人 パラスポーツ
推進ネットワーク】
医療保健学部 医療栄養学科 卒
2009年度入学 5期生

～ 役員体制 ～

- ・ 会長 浅香 樹 (医療保健学部 医療栄養学科 6期)
- ・ 副会長 深山 侑里 (医療保健学部 看護学科 6期)
- 岡田 遼平 (医療保健学部 医療栄養学科 5期)
- ・ 監事 内山 祥子 (医療保健学部 医療情報学科 6期)

- ・ 理事 庄司 尚子 (医療保健学部 看護学科 6期)
- 伊藤 雅晴 (医療保健学部 医療栄養学科 5期)
- 伊藤 大揮 (医療保健学部 医療情報学科 5期)
- 市川 典央 (医療保健学部 医療情報学科 6期)
- 宇田川 智司 (医療保健学部 医療情報学科 8期)
- 木所 由貴 (東が丘看護学部 看護学科 2期)
- 笠原 麻央 (東が丘・立川看護学部 看護学科 4期)

“新学部” 新入生の意気込み Student's voice

令和2年度より、東が丘・立川看護学部の改組による「東が丘看護学部」及び「立川看護学部」が開学し、2学部体制となりました！それぞれ「tomorrow's Nurse」と「地域から信頼されるNurse」の育成を目指す両学部の新入生から、大学生活への意気込みを伺いました。

東が丘看護学部 看護学科

4年間の抱負

1
年次生
山田
だ
い

恵
あ
や
ま
さ
き



私の4年間の抱負は、勉強とサークルの両立をはかり、充実した大学生活を送るとともに、立派な看護師になれるよう日々努力することです。看護学部は学習する知識の量が莫大なので、日々の予習・復習が欠かせないと思います。板書をただ写すだけであったり、習ったことを単に丸暗記するのではなく、学内の図書館に多くの書籍があるので、それを利用したりすることで、様々な視点から見て、考えることに重点をおいてやっていきたいです。

さらに、看護師はコミュニケーション能力も大切であるので、サークルなどの活動を通して仲間や先輩、先生方、関係者と出会い、関わることでその能力を養いつつ、楽しい学生生活を送りたいです。4年後、少しでも立派な看護師に近づいて大学を卒業できるよう、大学1年生の今から頑張っていこうと大きな夢を抱いております。

立川看護学部 看護学科

これからの学び

1
年次生
道
と
う
ら
庭
に

春
は
る
樹
ま



立川看護学部では近年、頻発する自然災害やテロなどの特殊災害などで必要とされている災害看護を学びます。

災害発生時、看護師は混乱している医療現場の中で何をすべきかを冷静に、素早く、自律的に判断し、最善の看護を提供する必要があります。そこで求められる力が「迅速に判断する力」「強い精神力」「実践力」です。これらは、確かな看護技術や高い人間性、災害に関する防災・減災の深い知識や専門技術があつてこそ成り立つものです。

この立川看護学部での4年間で座学や、医療現場での実習などを通して自分に不足しているこれらの知識や技術を身に付けたいと考えています。また、大学での学びだけではなく、ボランティア活動などにも積極的に参加し大学での学びに活用していきたいと思っております。

そして、寛容と温かみと体力のある看護師を目指します。

編集後記 Editor's note

4月の新型コロナウイルス感染防止に向けた緊急事態宣言以降、7つのキャンパスを要する本学の各学部・学科・研究科等においては、ICTを活用した遠隔授業（リアルタイム型、オンデマンド型等）を検討し実施してきました。

本学は、2005年の開学当初から全学生にノート型パソコンを貸与しPCを活用した学生の教育環境のサポート体制を整えています。このため、今回の遠隔授業を実施する上で学生と教員はスムーズに導入を図ることができました。

5月下旬には緊急事態宣言が全国で解除され、本学でも「新しい生活様式」を取り入れながら分散登校による対面授業（遠隔授業を併用）を再開しました。

各キャンパスの入り口には、学生が登校時に体温を計測できるシステム（サーモグラフィ）を整え、また学生食堂やラーニングスペースなど対面になるテーブルには机上パーテーションを設置しました。また、密接・密着を防止するために座席を間引くことや各所への手指消毒液の設置も実施しています。

さらに、全学生分のフェイスシールドを用意し、学内での授業をはじめ、実習や演習においても装着を推奨するなどの感染防止対策も取り入れています。

新しい生活様式には慣れない部分もありますが、“withコロナ”時代の中、安全面に配慮した教育環境のもとで学修できるよう、医療系大学として対策を進めてまいります。（Y）



机上パーテーションを設置（五反田キャンパス：食堂）



Zoomを活用した学内会議の様子

東京医療保健大学 校歌

作詞 田村哲山
作曲 津島利章

♩ = 90

A 3 **A'** 3

B

(1.) ん た か く い の ち の し か ん び や さ し く も あ
 (2.) だ の や ま に (ヤ) い の だ 一 り な れ し く や こ き し お も い や
 (3.) の い の ち の か 一 だ ぎ り な 一 く 一 き ず 一 な 一 つ

C

く り が る わ が こ こ や 一 ろ ち せ 一 い あ も ふ 一 れ ま
 な 一 げ ん ま わ が び し こ や め 一 に い ち あ じ 一 お ち 一 う 一 め 一 の 一 け

1.

と の 一 い ず み に わ れ 一 ら つ ど 一 い い そ し ま ん 2. い け
 が え な き 一 い の 一 ち だ わ れ 一 ら へ つ つ 一 な 一 げ あ そ し ま ん
 な ん 一 わ こ う ど わ れ 一 ら が ち ち 一 な 一 も て き ず

2. **D** 3

た な ふ な 一 で 3. ひ と

3. **E**

か ん り そ 一 う きょうりよく 一 ゆう 一 き わ が ほ こ

り 一 と も に も と め ん あ い の な か ま ま こ と の た ま し

い の 一 つ づ み を た か 一 く う ち な ら し 一 一

東京医療保健大学 校歌

作詞 田村哲山
作曲 津島利章

一、天高く 生命の神秘

やさしくも 憧憬るわが心
知性あふれ 真理の泉に
われら 集い勤しまん

二、池田の山に いだかれし

この思いやりの 学び舎に
仰ぎ求めよ かけがえなき生命
未来へつなげ 新たな出帆

三、人の生命の かぎりなく

絆つなげん わが使命
自調自考の城南若人
我らが力以て きずかん理想

協力勇気 わが誇り

ともに求めん 愛の仲間

まことの魂の

鼓を高く 打ち鳴らし